

本学硬式野球部における初球と打撃結果との関係性についての研究 —特にスイング時、見逃し時について—

濱本 修明 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 村田正夫

キーワード：初球 対策 打撃結果

1. 緒言

私は小学生の時に野球と出会い、監督・コーチから様々なアドバイスを頂いた経験がある。中でも攻撃中によく耳にしたのが、早めの打撃を促すアドバイスである。何気なく耳にしていた言葉だが、本当に正しかったのか。野球には12通りの配球パターンがあり、0-0のカウントから打ちに行くのは、リスクが大きく、有効性があるとは私は思えない。しかし、バッテリーからすると、初球に手を出してくる打者は脅威ということ聞いたことがあり、また川村らの著書「甲子園戦法」のくだりに、「甲子園での四死球後と安打後の初球の打率に関しては3割5分と高打率を残している」とある。そこで、本研究は野球の初球への対策が、打席の結果にどのように反映するのか、本学硬式野球部に着目し調査したものである。

2. 研究方法

本学硬式野球部のリーグ戦(2011年度リーグ戦・春季秋季計全24試合)を、スコアや配球チャートと照らし合わせながら、各打者の初球にのみ着目しデータ分析する。また、本研究を有効性のあるものにするために定義を5点定める。その結果を基に、最も高打率を残した対策、低打率を残した対策、打者が行うべき対策、避けるべき対策などをまとめる。

3. 結果・考察

春季・秋季ともに、初球への対策がその打席の結果に大きく影響を及ぼす結果になった。高打率を残したのは、春季秋季ともに初球からバットを振っていく対策だった。初球を振りプレッシャーを与えることにより相手は慎重になり、投手はストライクを取ろうと棒球を投げやすくなる。その球を打った結果、高打率を残せたと言える。反対に初球を見逃すという対策が最も低打率だった。これは、投手に主導権を握られてしまい、自分の打撃ができなくなってしまったからだと言える。

4. まとめ

本研究を通し打者の初球への対策が、打撃結果に大きく影響を及ぼしているということが実証できた。特に、初球を振ることは大きく有効性があるということが結果として出た。また、打者が行う最も良い対策としては、相手投手の球種にある程度ヤマを張って初球を振り、ヒットにならなかったとしても、ファールを打つなどしてタイミングを合わせることである。最も避けたい対策は、初球を簡単に見逃し、相手投手をリズムに乗せてしまうことである。また、今回の研究が本学硬式野球部の今後の活動に反映されれば非常にありがたい。

5. 参考文献

「甲子園戦法」川村卓、中村計(2007)